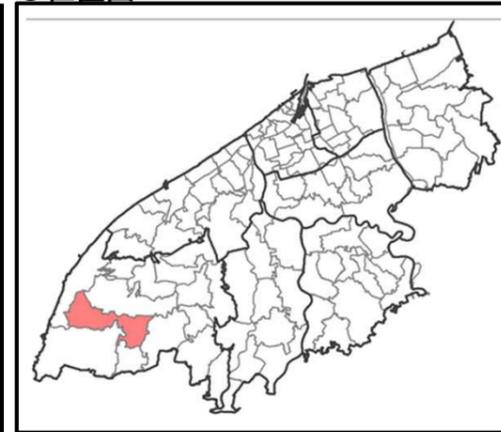


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

赤縮	松郷屋	
安尻	峰岡	
潟頭	鷺ノ木	
上木島		
下木島		
下和納		
竹野町		
平沢		
福井		
舟戸		
堀山新田		
巻		

●位置図

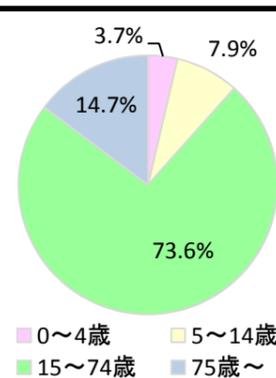


●施設・団体

市役所・区役所等	—
警察・消防	西蒲警察署、巻駅前交番、福井駐在所
消防団	西蒲方面隊 巻分団・越王分団
水防倉庫	—
一時避難場所	—
広域避難場所	城山運動公園
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 巻つくし保育園
	高齢者 福祉施設 遊生の里、槇の里、白寿荘西、白寿荘東
	障がい者 福祉施設 西ぽっぷこーんクラブ

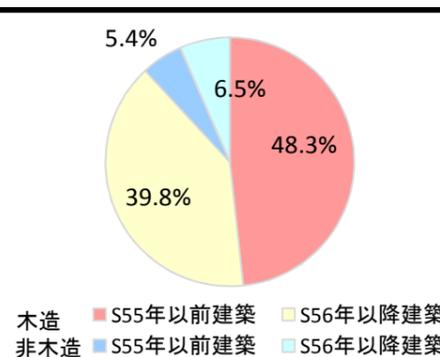
●人口

総人口	16,834人	地区の割合	市の割合
0～4歳	622人	3.7%	4.0%
5～14歳	1,336人	7.9%	8.5%
15～74歳	12,395人	73.6%	74.6%
75歳～	2,481人	14.7%	12.9%
65歳以上人口	4,794人	28.5%	26.0%
世帯数	6,258世帯		
一世帯あたり人口	2.7人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	1,052人/km ²		1,108人/km ²
昼間人口	17,712人	夜間の105.2%	



●建物関連指標

総棟数	9,541棟	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	4,608棟	48.3%	44.2%
S56年以降建築	3,795棟	39.8%	46.7%
計	8,403棟	88.1%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	513棟	5.4%	3.4%
S56年以降建築	625棟	6.5%	5.7%
計	1,138棟	11.9%	9.1%
S56年以降建築物	4,420棟	46.3%	52.4%



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]巻南小学校	5.4	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]西蒲高等特別支援学校	7.1	3	○	—	全階可	—
[ヒ]巻つくし保育園	5.4	1	○	—	×	—
[ヒ]巻総合高等学校	4.1	3	○	—	全階可	—
[ヒ]巻地域保健福祉センター	4.0	2	○	—	全階可	—
[ヒ]巻東中学校	3.3	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]峰岡公民館	7.3	1	○	—	全階可	—
[ヒ]入徳館野外研修場	12.4	1	○	—	全階可	○
[ヒ]じよんのび館	36.5	2	○	—	全階可	○
[ヒ]角田山自然館	33.1	2	○	—	全階可	—
[ヒ]巻農村環境改善センター	41.9	2	○	—	全階可	×

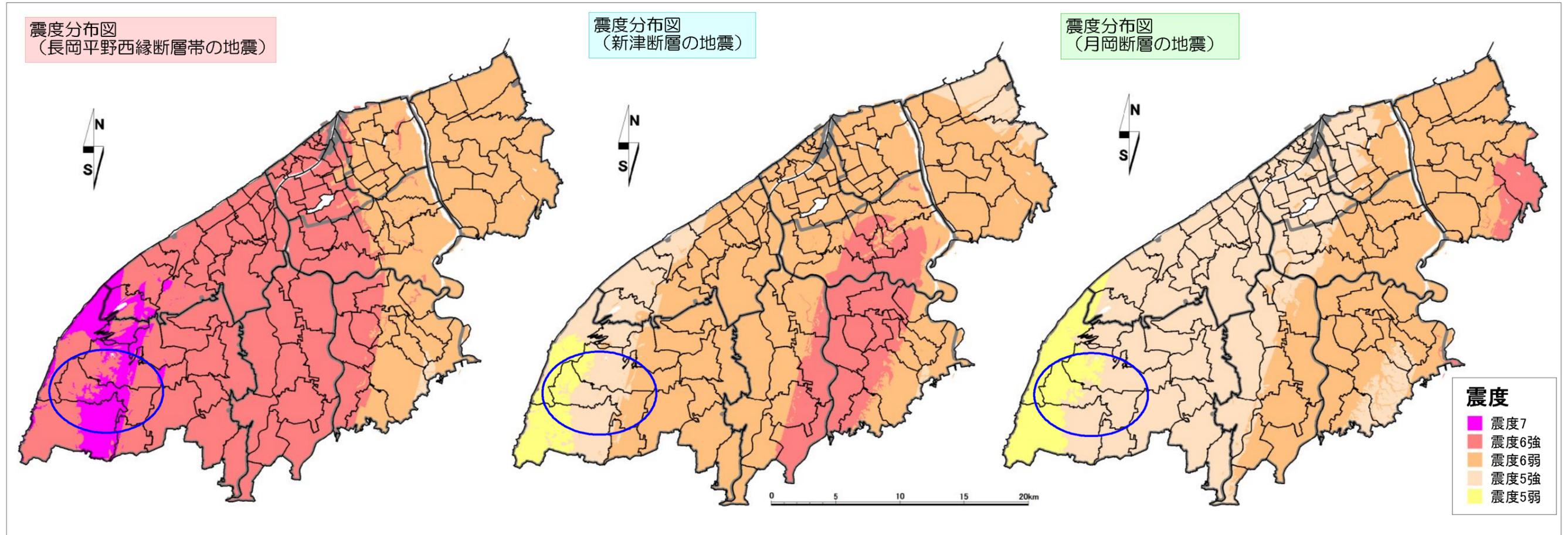
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]巻北小学校	5.5	3	○	—	全階可	○
[ヒ]巻高等学校	7.0	3	○	—	全階可	—
[ヒ]巻やすらぎ会館	7.2	1	○	—	全階可	—
[ヒ]巻体育館	5.3	2	○	—	全階可	—
[ヒ]巻文化会館・巻地区公民館	5.9	3	○	—	全階可	—
[ヒ]巻保育園	4.1	2	○	—	全階可	—
[ヒ]巻ふるさと会館	17.8	2	○	—	全階可	×

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・避難可能な階数、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震	地区の東部から中部は軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。地区西部の山地では、強い揺れや液状化の可能性は低い、揺れに伴うがけ崩れの危険がある。
津波	津波の浸水は想定されていない。
洪水	信濃川下流の洪水、矢川の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって、地区の東部から中部で浸水の可能性がある。
土砂	西部の山地には、土砂災害警戒区域等が分布しており、大雨時には、がけ崩れや土石流の危険がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

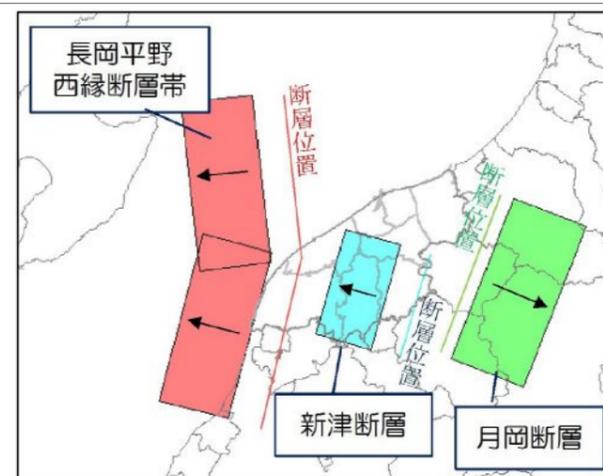
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

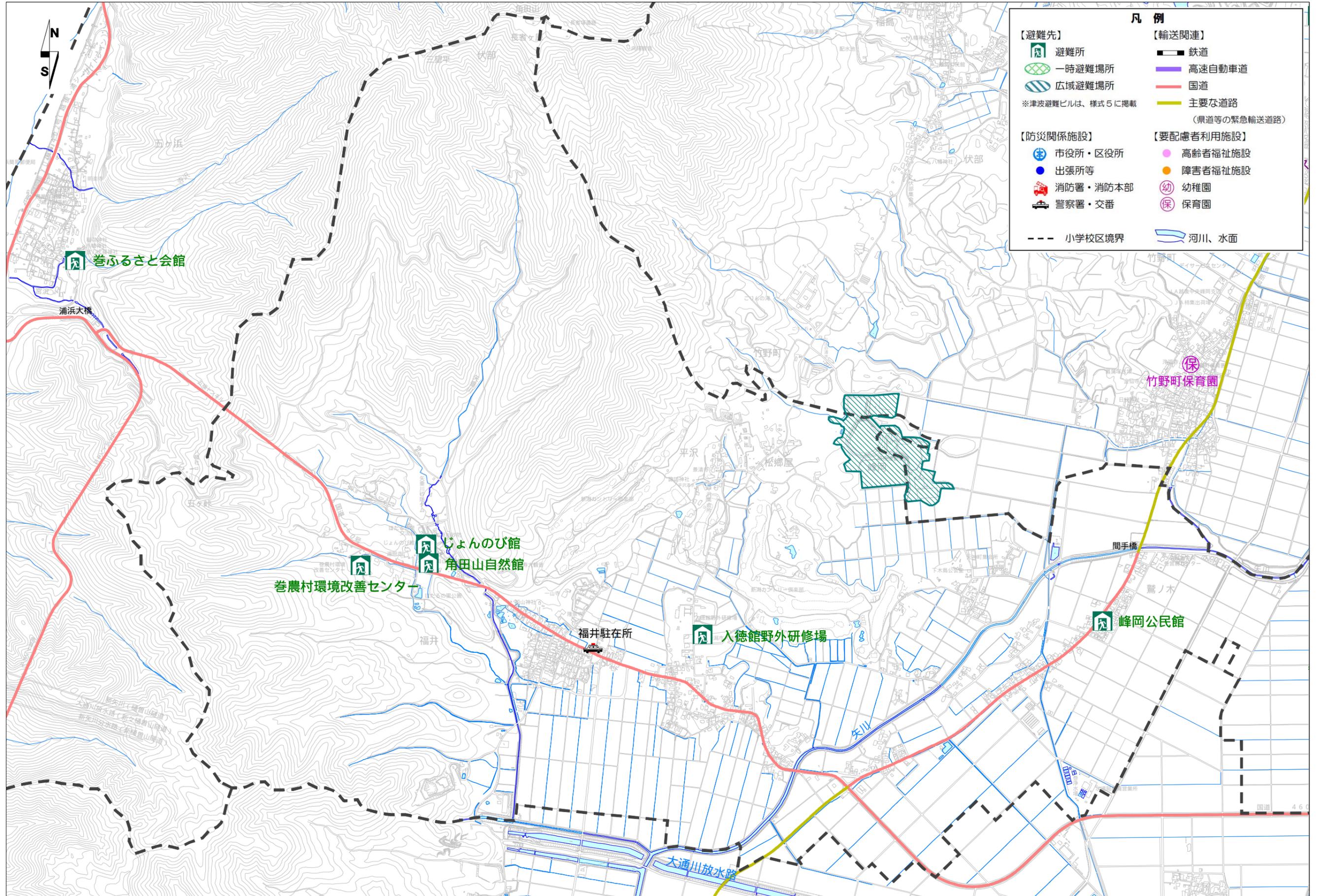
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

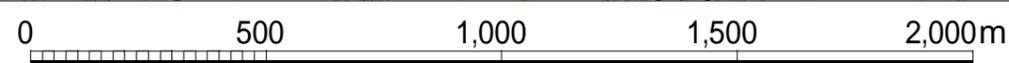
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

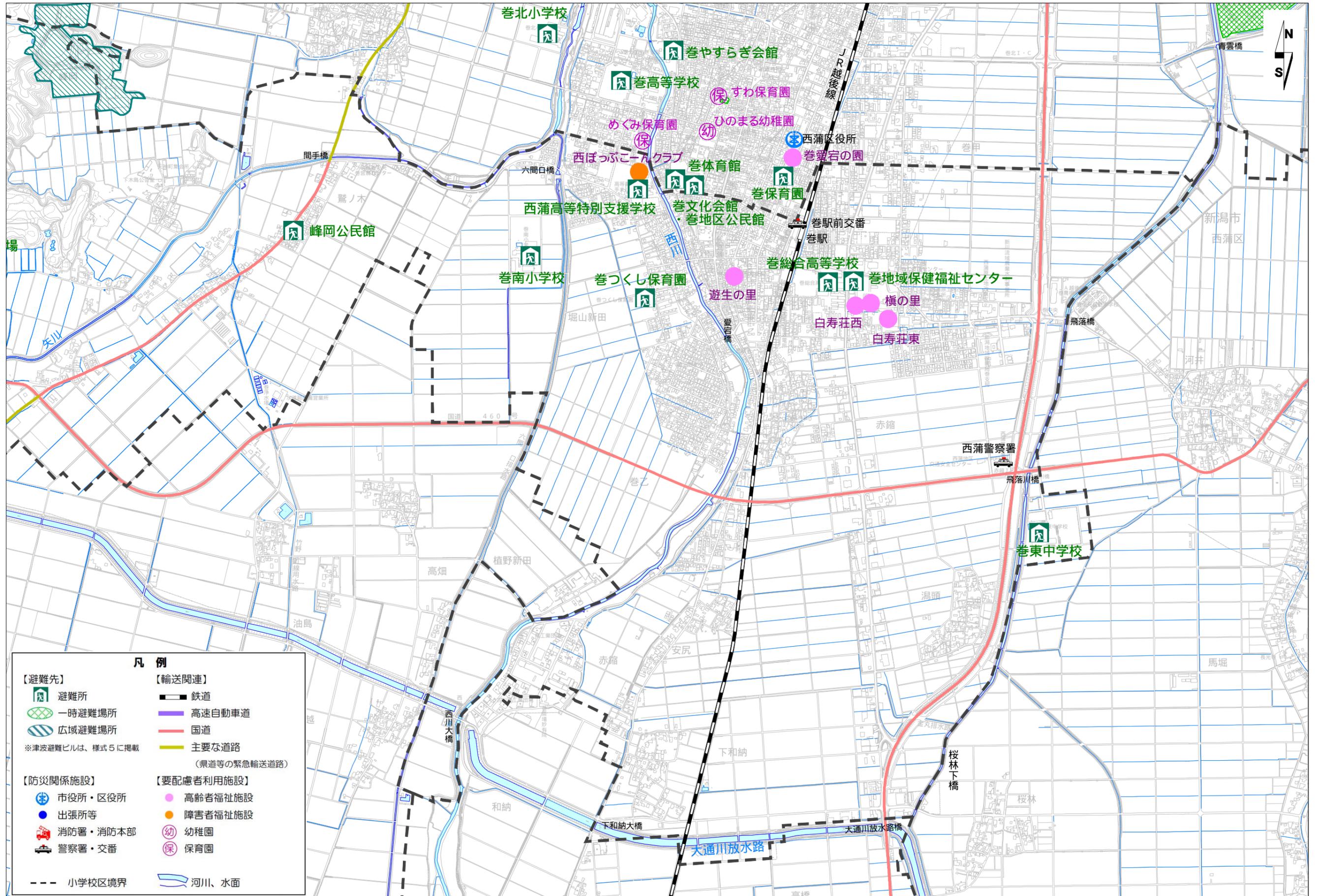


← は、断層の傾きを示しています。



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)

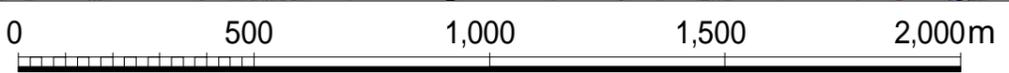


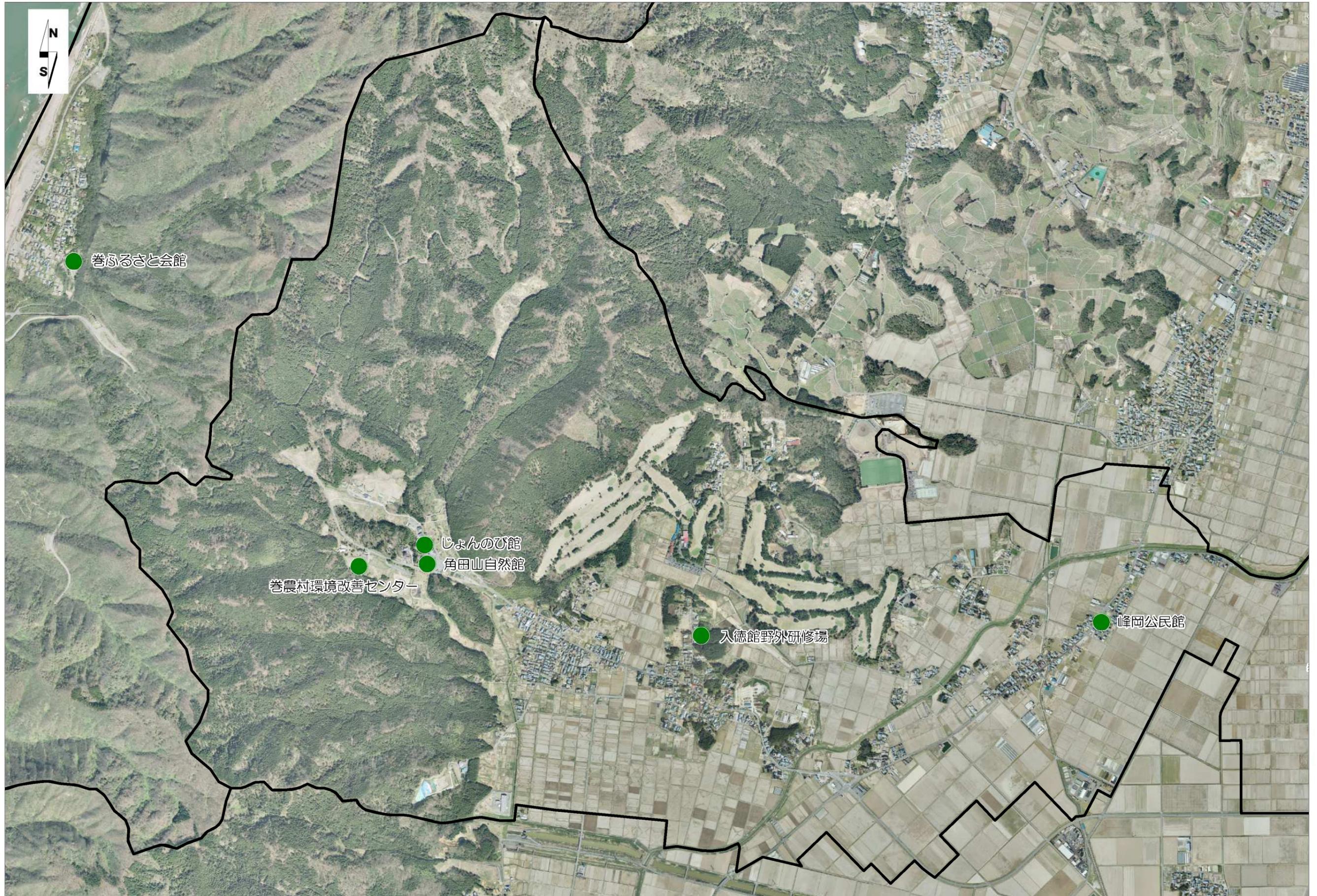


凡例

【避難先】	【輸送関連】
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
※津波避難ビルは、様式5に掲載	主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)
【防災関係施設】	【要配慮者利用施設】
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
--- 小学校区境界	河川、水面

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)





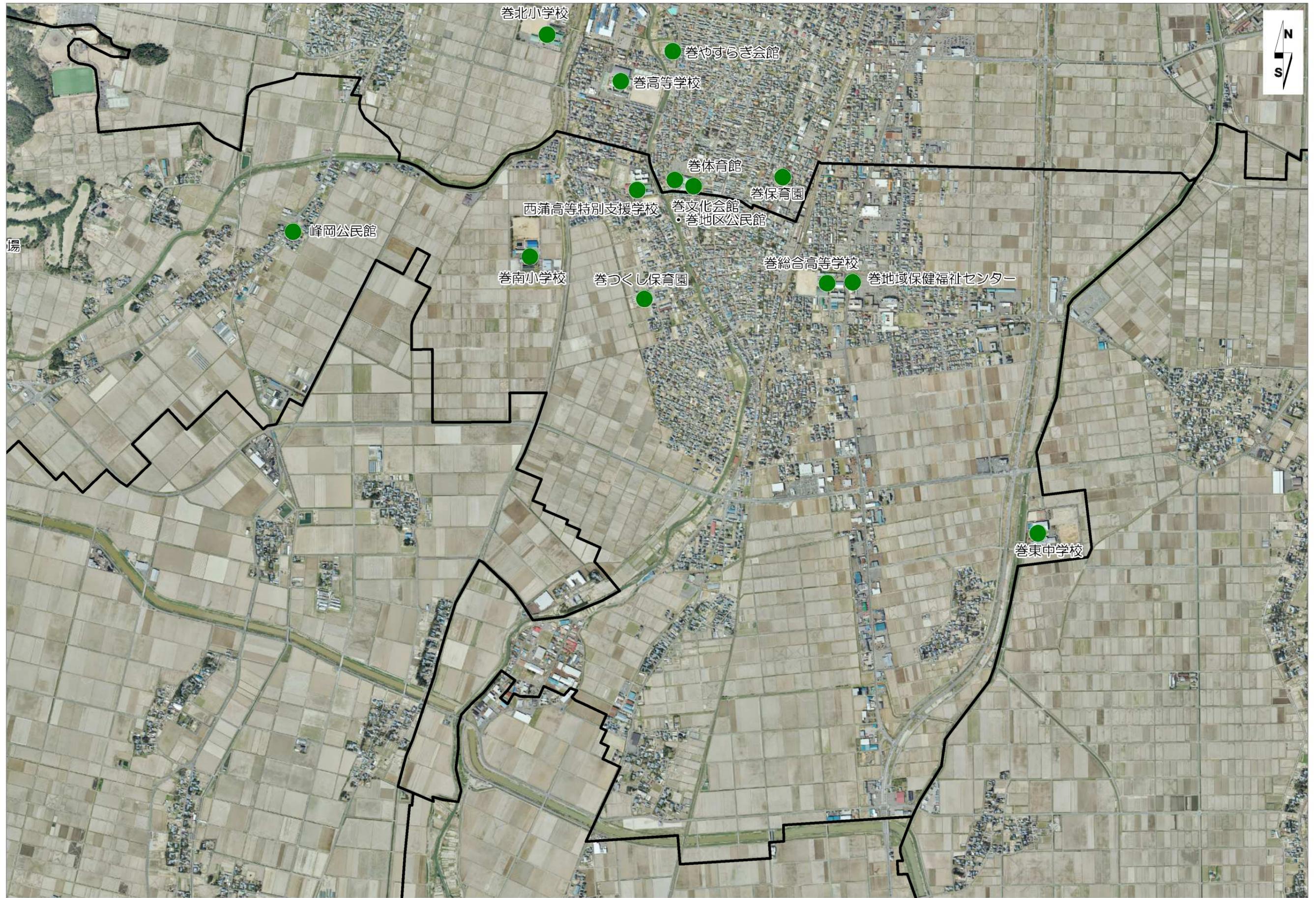
● 巻ふるさと会館

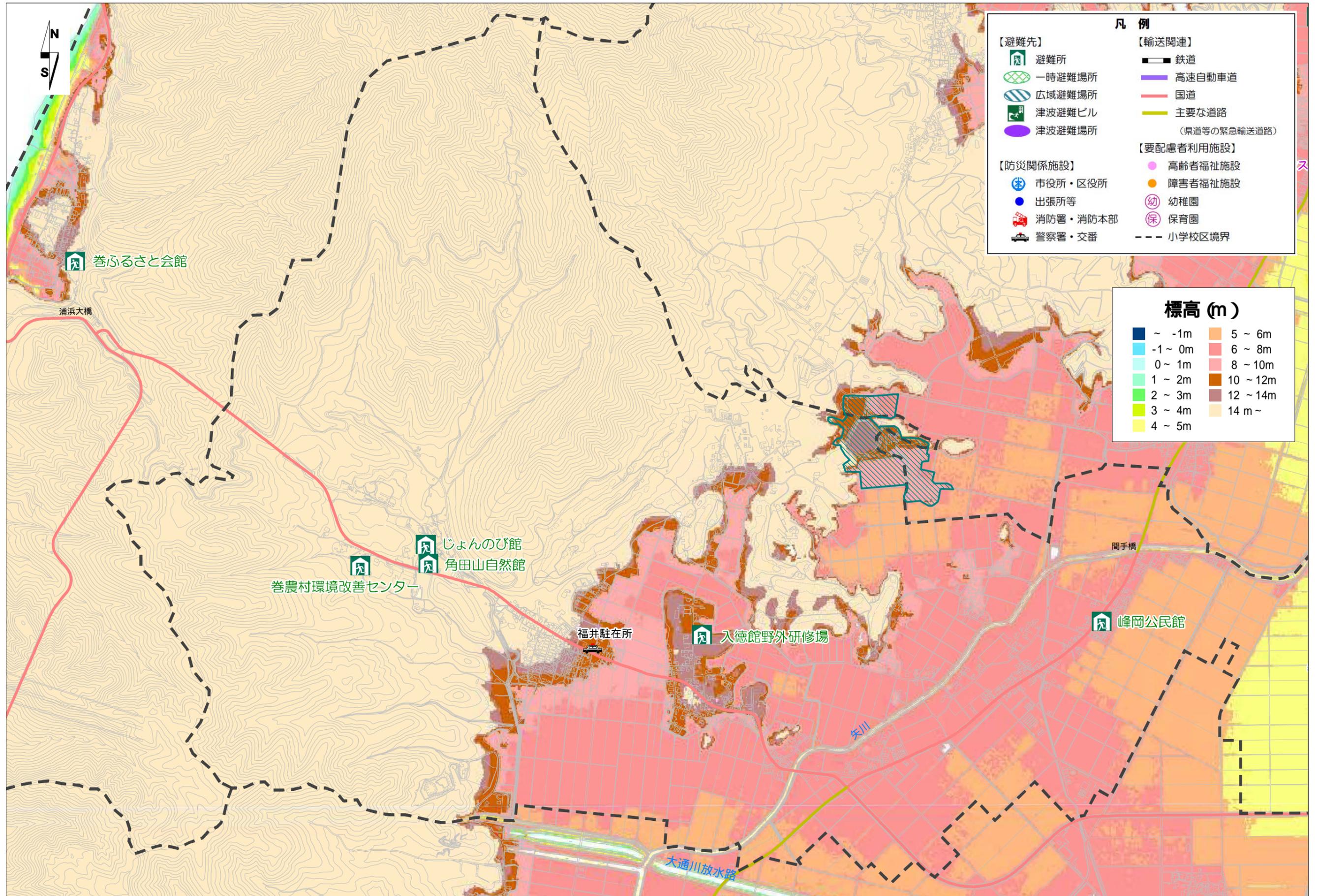
● 巻農村環境改善センター

● じよんのび館
● 角田山自然館

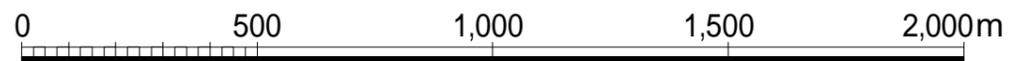
● 入徳館野外研修場

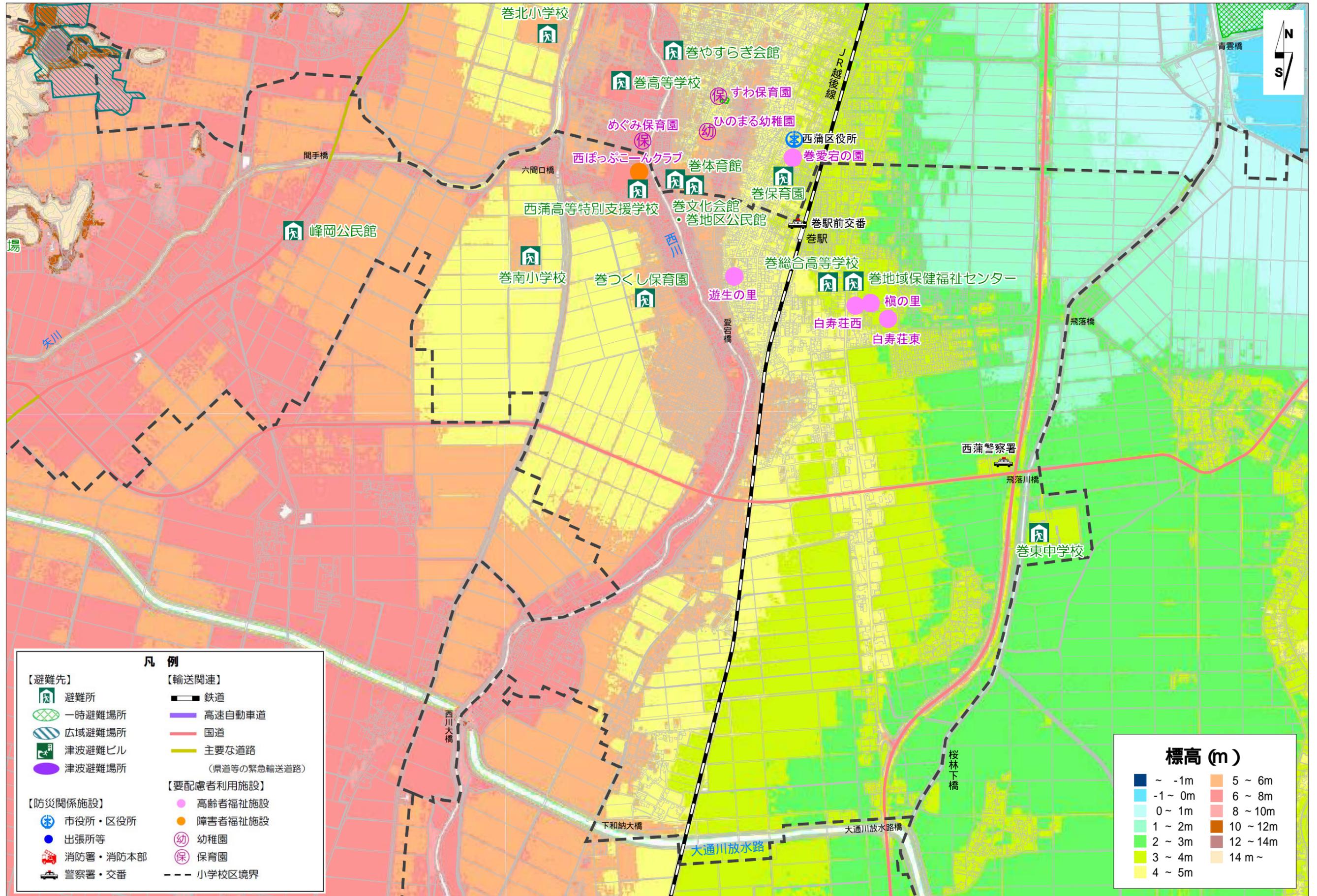
● 峰岡公民館





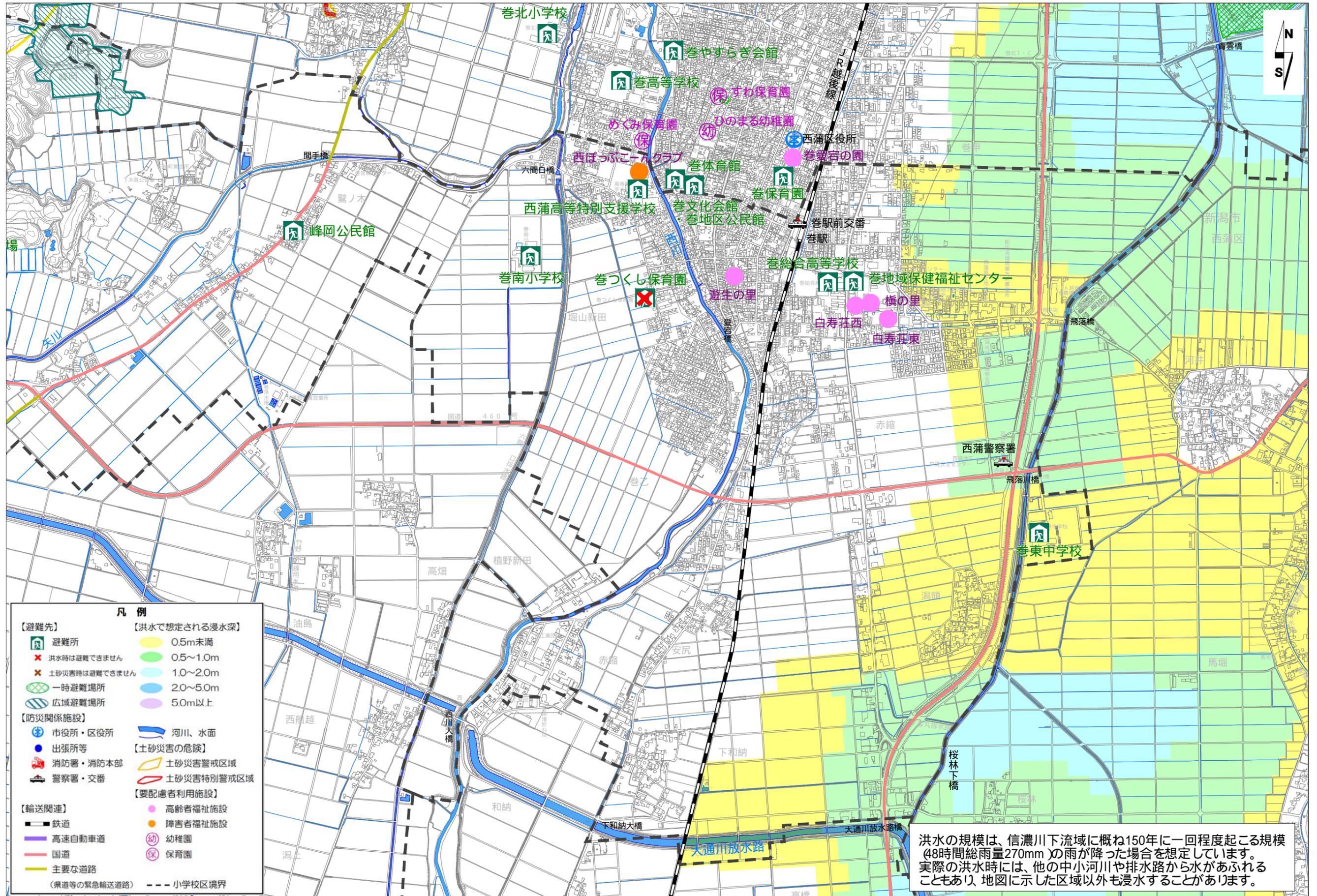
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院,平成25年)





[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院,平成25年)

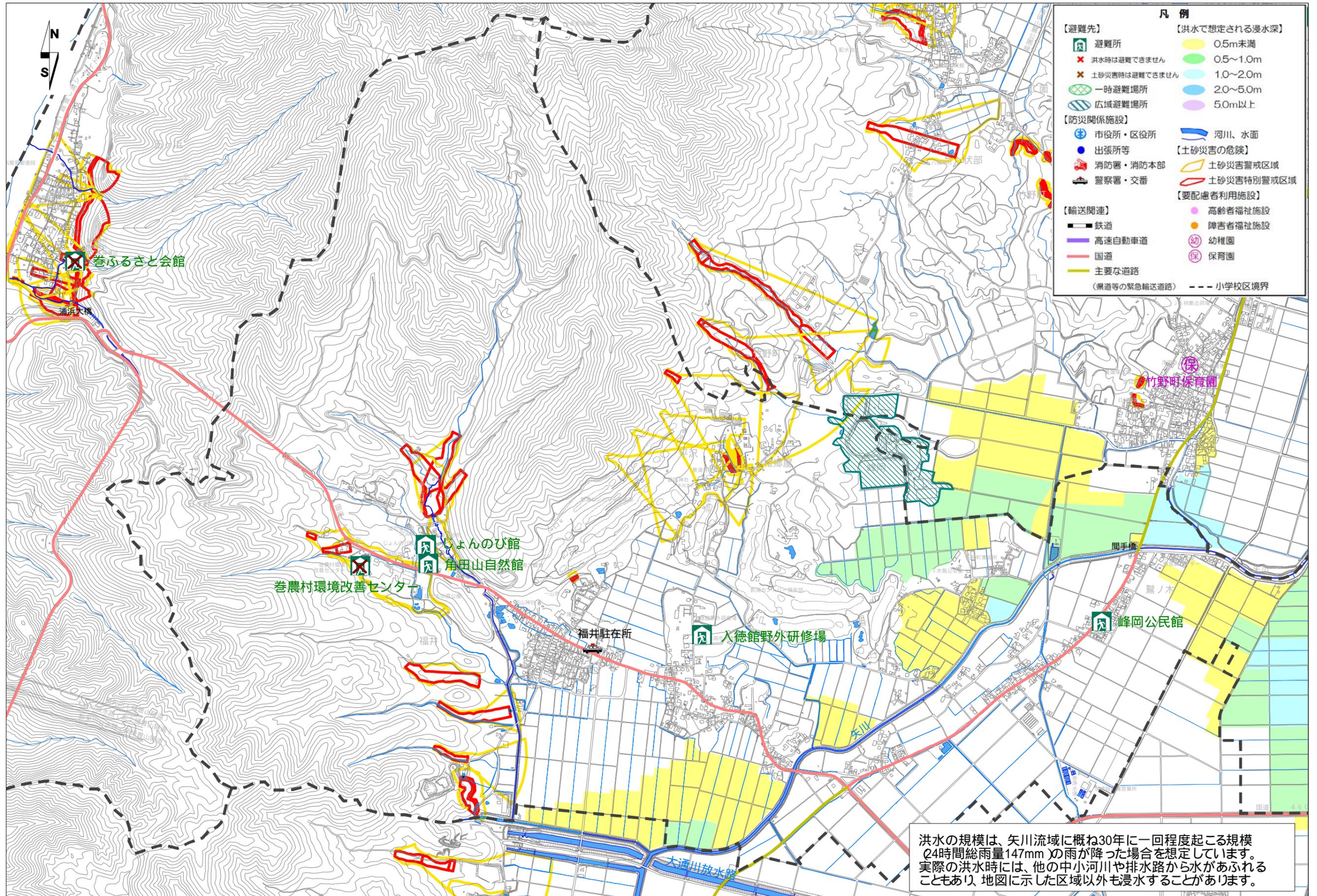




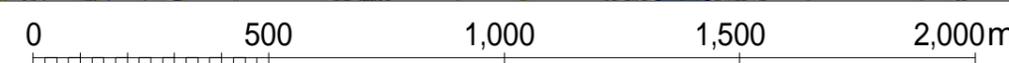
洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

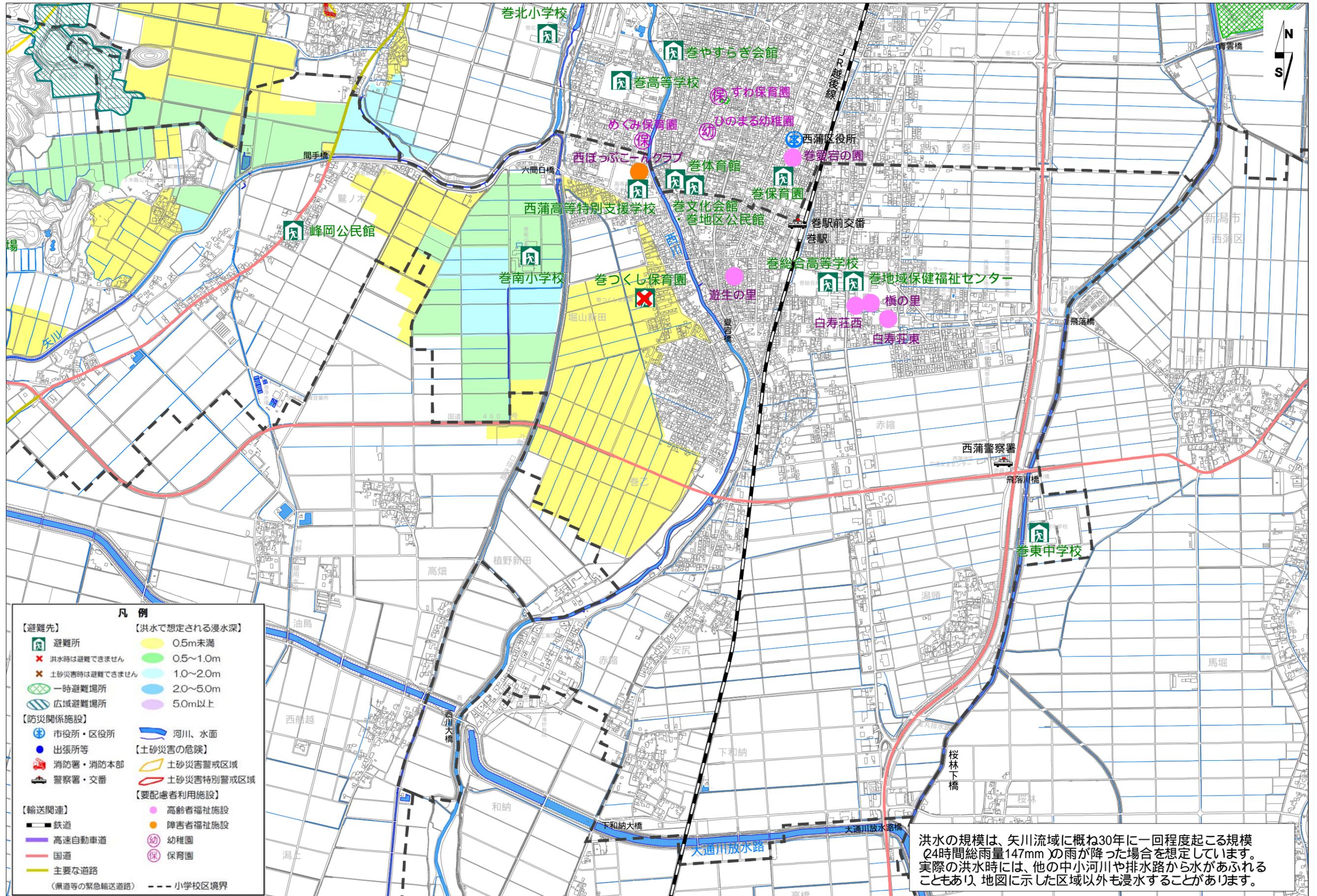
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m



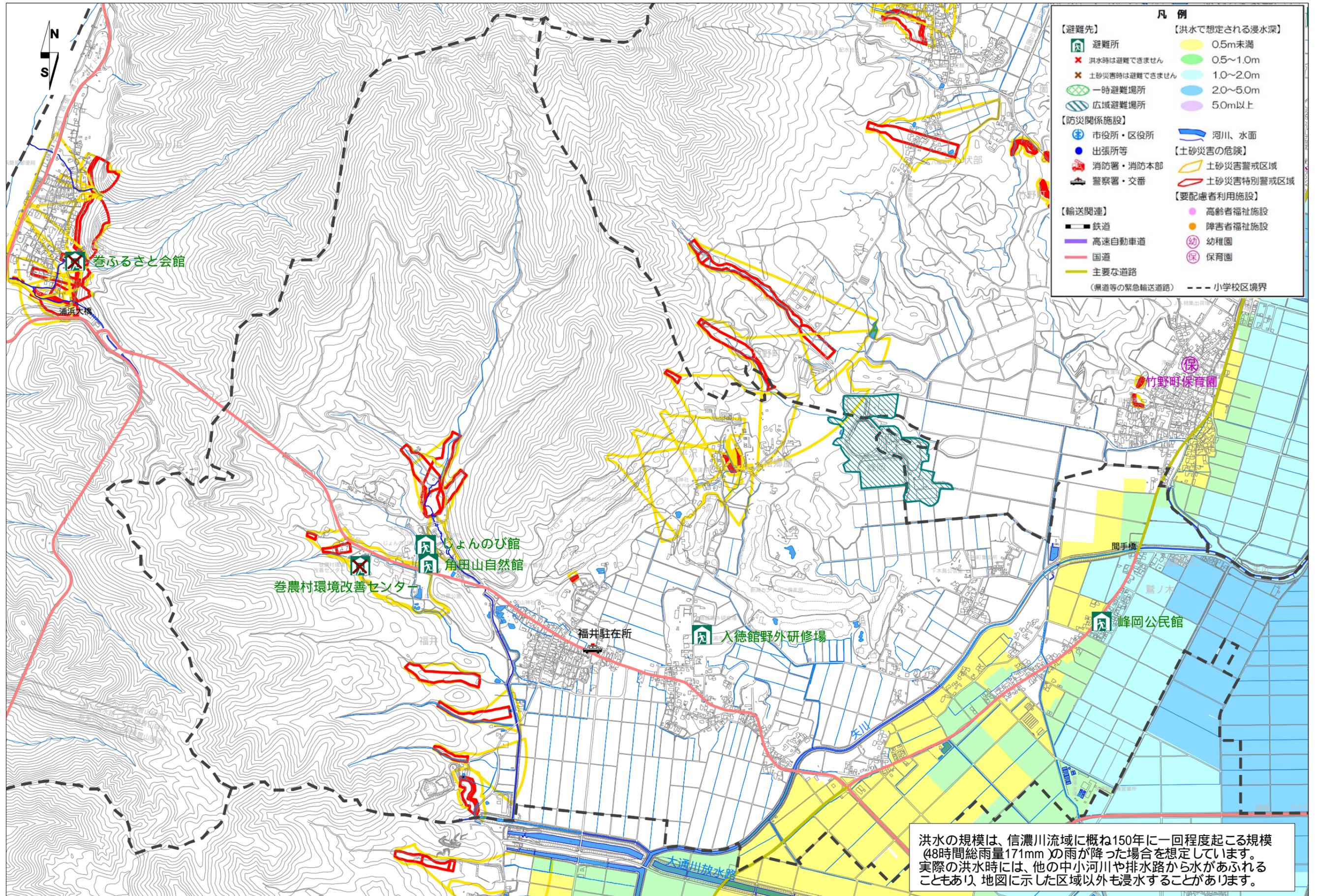
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
 矢川浸水想定区域 (新潟県,平成18年8月1日)



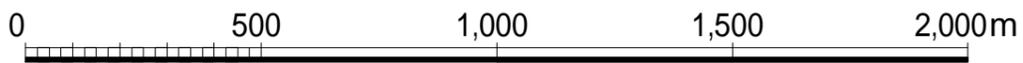


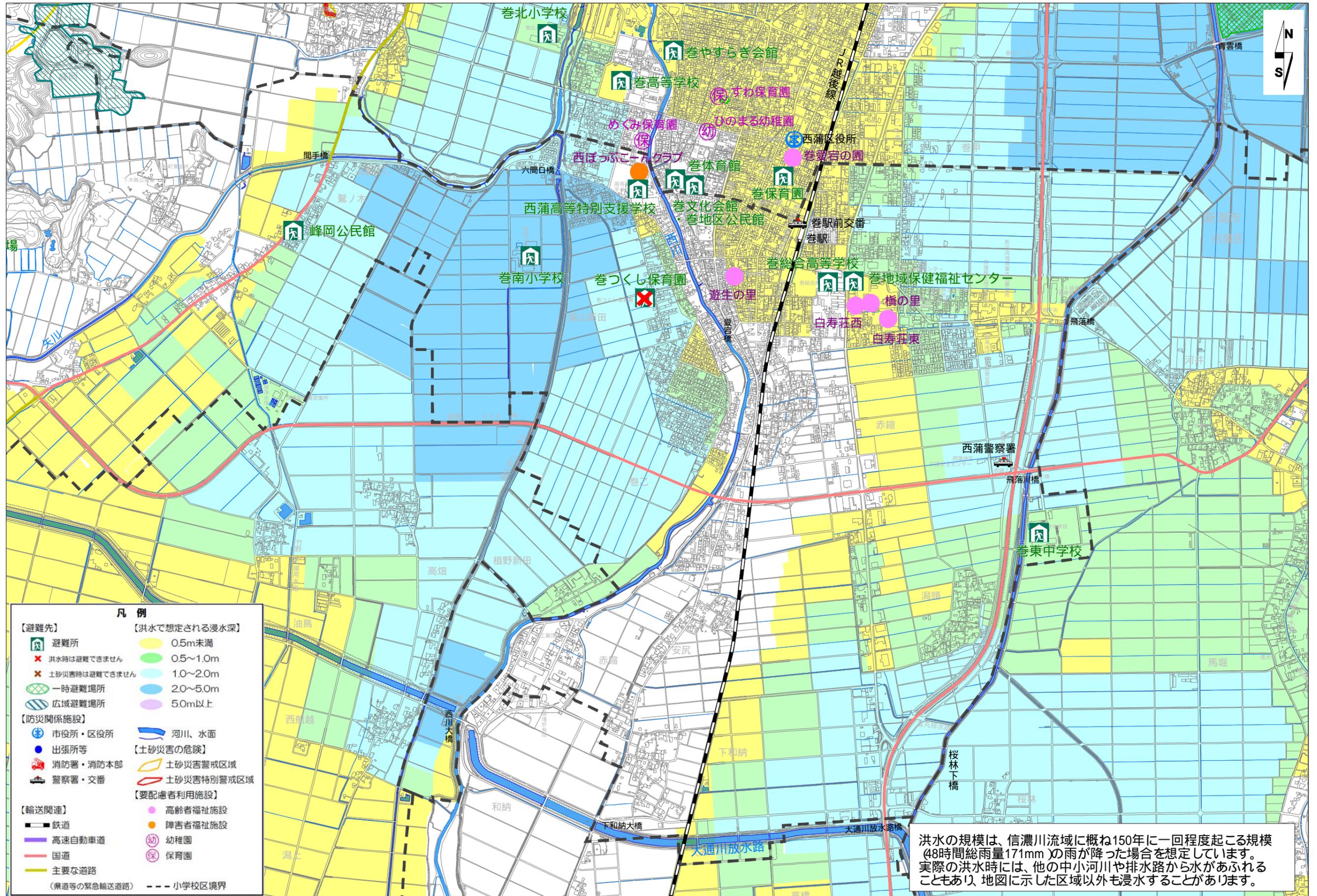
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
矢川浸水想定区域（新潟県，平成18年8月1日）

0 500 1,000 1,500 2,000m



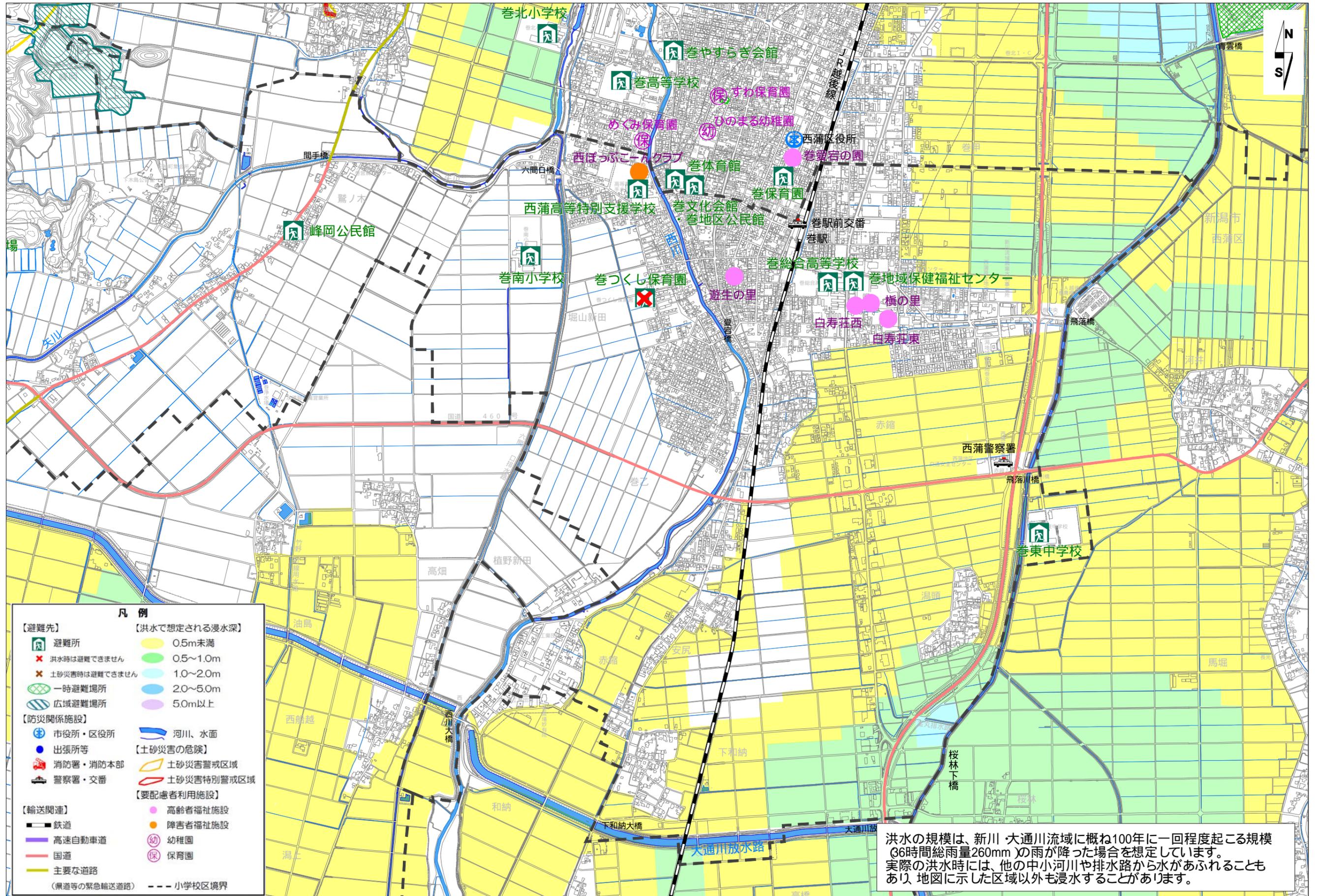
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)





[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m



【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域（新潟県，平成20年2月26日）

0 500 1,000 1,500 2,000m

洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模（36時間総雨量260mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。